

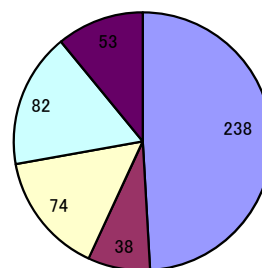
# 景気動向

業況は横ばい。  
先行きも製造業、非製造業共に横ばいの見通し。

- 調査時点 平成23年10月調査(23年9月末時点)
- 対象企業 800社
- 回答企業 485社(回答率:60.6%)  
(製造業238社、建設業38社、卸売業74社、  
小売業82社、サービス業53社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	238
建設業	38
卸売業	74
小売業	82
サービス業	53



- 製造業
- 建設業
- 卸売業
- 小売業
- サービス業

## <全産業>

全産業の業況DI(▲30.7)は、前回(▲34.6)に比べて横ばいを示した。  
業種別では製造業の業況DI(▲28.5)は、前回(▲27.8)に比べて0.7ポイント悪化した。  
建設業の業況DI(▲10.5)は前回に比べてわずかに改善、小売業の業況DI(▲36.6)は横ばいを示し、卸売業も横ばい、サービス業ではわずかに改善を示した。  
各業種からは、原発事故による風評被害の影響が長引き、業況悪化の声が多く聞かれるのと共に、最近の超円高の影響を懸念する声が聞かれ、また復興特需が一段落した後の先行きを危ぶむ声があった。  
3か月先見通しは、製造業、非製造業共に横ばいを見通している。

### ■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
9月末時点	-30.7	-26.2	-30.1	-12.9
6月末時点	-34.6	-31.2	-36.4	-17.6
前回比	3.9	5.0	6.3	4.7

### ■全産業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	19.8	20.2
悪化	50.5	54.8
DI値	-30.7	-34.6
前回比	3.9	-16.0

### ■9月末時点からみた

#### 全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	13.4
悪化	43.3
DI値	-29.9

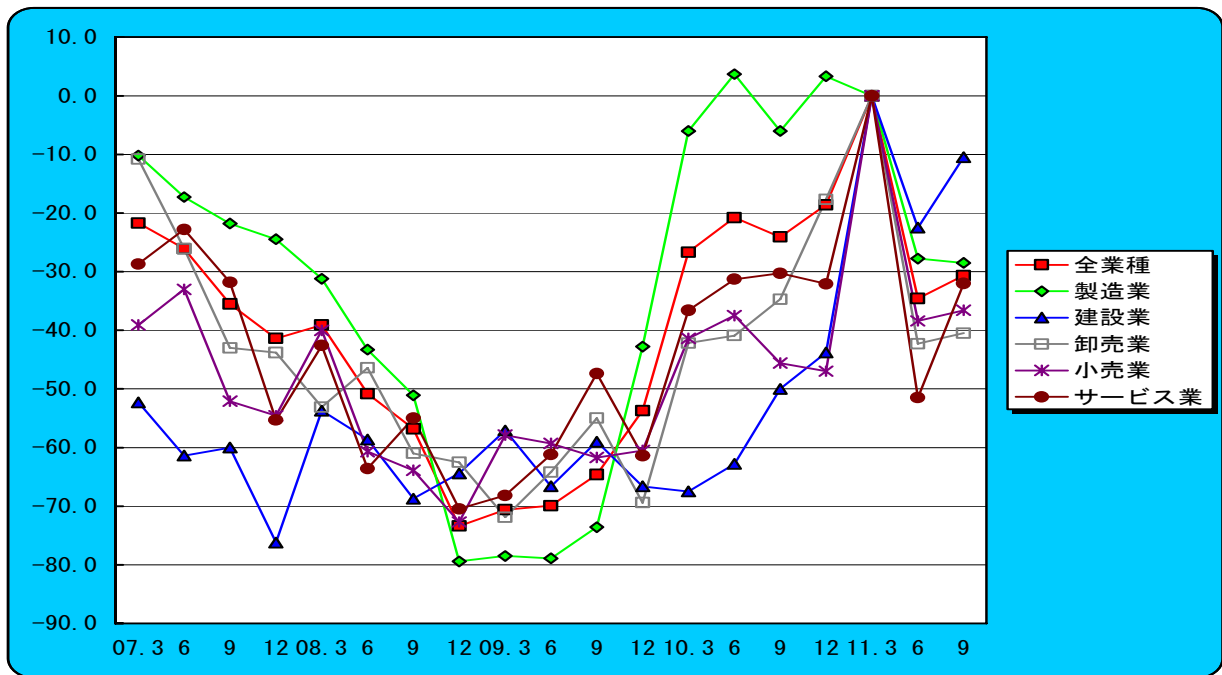
### ■製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	18.1	22.2
悪化	46.6	50.0
DI値	-28.5	-27.8
前回比	-0.7	-31.1

### ■非製造業の業況

業況	9月末時点	6月末時点
良化	21.5	18.5
悪化	54.3	58.9
DI値	-32.8	-40.4
前回比	7.6	-4.1

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	-28.5
先行き	-31.5
前回比	-0.7

対象企業	371
回答企業	238

業況・売上・採算・資金繰りの全てで横ばいを示した。

業種別にみると業況は「窯業・土石」で大幅改善、「印刷」「電気機器」で改善、「ニット」「縫製」「一般機器」「輸送用機器」「プラスチック」でわずかに改善、「鉄鋼・非鉄」で横ばい、「食料品」「織物」「木材・木製品」「金属」「精密機器」でわずかに悪化、「酒造」で大幅悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・採算で横ばい、売上・資金繰りでわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「木材・木製品」「金属」の業況は改善、「食料品」「縫製」「印刷」「輸送用機器」はわずかに改善、「織物」「精密機器」は横ばいを見通している。一方で「窯業・土石」「一般機械」「電気機器」の業況はわずかに悪化、「酒造」「ニット」「鉄鋼・非鉄」「プラスチック」は悪化を見通している。

「風評被害にはまったく歯止めがきかず、今後補償されるかどうか不透明」「急激な円高は、その差益を生かせればよいのだが、実状としては将来的に客先の輸出減と共に当社への発注減少が考えられる」「生産高は若干減少(リーマンショック前比では-30%)しているが、需要の変化により部品単位で、負荷オーバーが出ている。自然減による作業要員を若干募集したが、応募者は極端に少ない」といった声の他に、「今のところは順調であるが、今後円高の影響が心配である」「震災特需があったが一段落し、その後受注数が減り、稼働が落ちている」また「震災や風評被害に負けずに、がんばっていきたい」といった声があった。

自由意見

製造業

- 震災や風評被害に負けずに、がんばっていきたい。 【食料品】
- 先行き不透明。 【食料品】
- 連日マスメディアで原発事故関連が放映され、風評に悪影響をおよぼしているのではないかと。なんとかして欲しい。 【食料品】
- 風評被害にはまったく歯止めがきかず、今後補償されるかどうか不透明。 【食料品】
- 新しい商品の開発努力が必要であると思ひ、試作中です。 【食料品】
- 大内宿、旅館など観光関連に影響し業況は悪化している。 【食料品】
- 前年9月と比べて売上高が良化したのは、震災特需で、これがなければマイナスの状況。今後の状況は厳しい。 【食料品】
- 30k圏内で仕事が減っていて、8月末現在で売上が前年比37%と非常に悪い。 【食料品】
- 原発事故による風評被害が少しずつ広がっている感じがする。 【酒造】
- 市況全体として高額品が苦戦。シルクを主に扱う当社にとっては厳しい。新商品開発に活路を見出したい。 【織物】
- 依然として採算良くなく、資金繰り悪し。受注単価の好転を望む。 【縫製】
- 放射能による風評被害で福島県中通り、浜通りは若い人達にとって魅力がないのではないかと。今後強力な公共投資等がなければ近隣地域は低迷する。 【木材・木製品】
- 福島県ということで応援もいただくが、敬遠されてしまうことのほうが多いのが現状です。 【木材・木製品】
- 今は仮設住宅の稼働率100%ですが10月で終了です。その先は見えません。 【木材・木製品】
- 東日本大震災・福島第一原発事故の影響が甚大。需要と受注単価の変化が業況を圧迫。 【木材・木製品】

○資金繰りについて、貸付という形では無く助成金のような、経営を圧迫しない方法を検討して欲しい。	【印刷】
○震災後、売上が減少しています。従業員数は前と同じなのでなかなか大変です。	【印刷】
○今後に希望をもってやっていきたい。	【印刷】
○急激な円高は、その差益を生かせればよいのだが、実状としては将来的に客先の輸出減と共に当社への発注減少が考えられる。	【窯業・土石】
○県北地域、とりわけ伊達地区には今後公共工事（道路工事及び震災復旧工事）が見込まれ、早期着工を願っております。	【窯業・土石】
○節電の為に受注が減少しました。	【鉄鋼・非鉄】
○受注に波がありません。	【鉄鋼・非鉄】
○生産高は若干減少（リーマンショック前比では-30%）しているが、需要の変化により部品単位で、負荷オーバーが出ている。自然減による作業要員を若干募集したが、応募者は極端に少ない。	【鉄鋼・非鉄】
○節電による大手発注会社の休日の増加により、受注は減少しています。	【金属】
○今回の震災で、今後の予測は不可能。	【一般機械】
○親企業（発注先）が円高で苦しんでおり、下請にも影響が出て来る見通し。	【一般機械】
○円高による受注減の圧力が強く、先行き不透明。	【一般機械】
○円高によるコスト引下げ、海外生産シフトなど、これから厳しくなるようだ。	【一般機械】
○業界としては悪化傾向に有る。	【電気機器】
○今のところは順調であるが、今後円高の影響が心配である。	【電気機器】
○二本松管内は人口増に伴い消費は伸びていると思われる。だが、原発事故の影響で今後県内の製造業は厳しさを増すと思われる。直近では中国での業務展開も避けては通れない。	【電気機器】
○10月以降材料値上げが予想され、採算悪化のリスクが出てくる。今後経営環境は不透明感が強くなる見通しである。	【輸送用機器】
○新興国とのコスト競争による国内産業空洞化の影響が出始めている。	【輸送用機器】
○自動車関連企業として、8～10月は震災後の在庫不足解消で、受注量は良いが、実際の販売台数は落ちこんでおり、11月位には受注減が予想される。	【輸送用機器】
○重機部品に於いて、震災復興の為に需要増加により当面の見通しは良いが、輸出（得意先の）に関しては円高により需要の減少が、懸念される。	【輸送用機器】
○円高の影響がゆっくりではあるものの、今後出てくる感じがします。また、今年前半は震災絡みで値下げは見送られてきましたが、後半は厳しいコストダウンを要求されそうです。	【輸送用機器】
○量産品の受注が少なくなっている。（多くは300ヶ以下、今までは300～1000ヶ）	【精密機器】
○原材料費の高騰。	【精密機器】
○円高の影響は、今後の最大の不安要因です。震災の第1段階の復興需要のピークは過ぎた感があります。	【精密機器】
○震災特需があったが一段落し、その後受注数が減り、稼動が落ちている。	【プラスチック】
○液晶パネル製造装置は全くダメ、半導体製造装置も受注減少。	【プラスチック】
○風評被害による、業務の停滞が考えられる。	【プラスチック】

## <建設業>

業況DI値	
今回	-10.5
先行き	-5.3
前回比	12.0

対象企業	66
回答企業	38

業況・採算でわずかに改善、売上・資金繰りで横ばいを示した。業種別にみると「土木」は採算で改善、業況・売上・資金繰りでわずかに改善を示した。「建築」は業況・採算でわずかに改善、売上では横ばい、資金繰りでわずかに悪化を示した。3か月先見通しの業況はわずかに改善、売上は横ばい、採算・資金繰りでわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「土木」は業況・売上・採算・資金繰りの全てでわずかに悪化を見通している。「建築」は業況で改善、売上ではわずかに改善、採算・資金繰りでわずかに悪化を見通している。

「災害関連の受注で今年度は何とか採算を保ちたい」「災害復旧工事の増加により、下請工事業者、及び現場代理人が不足する」といった声があった。

## 自由意見

### 建設業

○災害関連の受注で今年度は何とか採算を保ちたい。	【土木】
○災害復旧工事の増加により、下請工事業者、及び現場代理人が不足する。	【建築】
○現在は復興需要があることは認めざるを得ませんが、入札になると競争が激化し、応急処置を依頼された取引先の物件も失注しています。	【建築】

## <卸売業>

業況DI値	
今回	-40.5
先行き	-37.9
前回比	1.8

対象企業	114
回答企業	74

業況で横ばい、売上・採算・資金繰りでわずかに改善を示した。  
業種別にみると、業況は「衣服」「機械器具」で改善、「飲食料」「鮮魚」で横ばい、「建築材料」でわずかに悪化、「青果物」で悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りの全てで横ばいの見通しを示した。  
業種別にみると、業況は「飲食料」「鮮魚」で改善、「青果物」「建築材料」でわずかに改善、「衣服」でわずかに悪化、「機械器具」で悪化を見通している。

「主力商品が福島県産米なので風評被害が大きく影響しています。県産米の販売について行政サイドからの支援をお願いしたい」「浜通りは、原発を境に二分されてしまいました。特に双葉郡の人口が避難により激減しており、売上げは大幅に減少しています。」という声の他に、「震災特需で売上増」「建設業(新築、リフォーム)なので、震災復興需要も手伝って業況は良いと言える。但し、職人不足(特に瓦工)が今後、続くと考えられるので工期の長期化が問題」という声もあった。

## 自由意見

### 卸売業

- 福島原発に伴う損害により資金繰りの悪化、繋ぎ資金を手配はしたが、今後の賠償の進捗いかんでは、数年後資金繰りがショートする恐れ有り、政府の早急な対応を望みます。 【衣服】
- 震災特需で売上増。 【衣服】
- 主力商品が福島県産米なので風評被害が大きく影響しています。県産米の販売について行政サイドからの支援をお願いしたい。 【飲食料】
- 風評被害の影響で、お得意様をはじめ経営環境が厳しさを増す中、未だ原発事故収束の見通しがたらず、改善の予想が出来ない状態である。 【飲食料】
- 風評被害が大きな影響を受けている原因と考えています。健康食品という分野では、「福島」という呼び名が大きなマイナスキーワードになっているのではないかと感じざるを得ません。 【飲食料】
- 放射能の風評被害により県内産農畜産物が売れない。 【飲食料】
- 震災による原発事故の放射能の影響が大きい。 【飲食料】
- 原発事故による影響が未だあり、震災後の商品入荷が完全に回復していない。 【飲食料】
- 原発事故の影響の深刻化及び、風評被害(福島=放射能汚染)の定着。 【青果物】
- 風評被害で売上大幅減(関東圏からの観光客激減)。 【青果物】
- 原発事故による風評被害。浪江、富岡、双葉地区は避難地域のため販売出来ず。 【青果物】
- 原発事故により魚の水揚げがなく商売にならない。これからも先行きの見通しがたない。 【鮮魚】
- 浜通りを主要な商圏にしている卸売業者です。浜通りは、原発を境に二分されてしまいました。特に双葉郡の人口が避難により激減しており、売上げは大幅に減少しています。 【鮮魚】
- 東日本大震災と原発事故の影響により、浜通り地区を中心に返品依頼が相次いでおり、厳しい経営環境が続いております。 【機械器具】
- 建設業(新築、リフォーム)なので、震災復興需要も手伝って業況は良いと言える。但し、職人不足(特に瓦工)が今後、続くと考えられるので工期の長期化が問題。 【建築材料】
- 業界の鋼材需要は、10~12月は上向きになる予測。自社がどのくらい営業で確保できるか。 【その他】
- 震災の影響により売上は落ちましたが、何とか対前年比で90%迄は回復しています。 【その他】



## <小売業>

業況DI値	
今回	-36.6
先行き	-32.9
前回比	1.8

対象企業	144
回答企業	82

業況・売上・資金繰りで横ばい、採算でわずかに改善を示した。

業種別にみると「衣料」は業況・売上・採算でわずかに改善、「家電品」は業況・売上・採算・資金繰りの全てでわずかに改善、「自動車販売」は業況・売上・採算で改善、資金繰りで横ばいを示したのに対し、「中小スーパー」は業況で悪化、採算・資金繰りで大幅悪化を示している。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りの全てで横ばいを見通している。

業種別にみると「飲食料」は業況・採算・資金繰りでわずかに改善、売上で改善、「自動車販売」は業況で改善、売上でわずかに改善を見通し、「中小スーパー」では業況・売上で悪化、「家電品」は業況・売上・採算でわずかに悪化、資金繰りで悪化、「家具・建具」は業況・採算・資金繰りで悪化、売上で大幅悪化を見通している。

「震災後、福島原発の放射能と、災害が続き、当町商店街の中でも、閉鎖する商店が相次ぎ、これから先の見通しは、まったく立てられません」「放射能問題から、設備投資、買替等、話が進まない。先がどうなるかという不安からか、沈滞している」という声がある反面、「震災にて大口発注有り、良化」といった声や、「被災地域の家具店は特需があり現在は昨年より売上げを伸ばしているが、これから先逆に不安を感じる」という声もあった。

## 自由意見

### 小売業

- 原発事故の風評被害で客もほとんど来ず、全く商売になりません。【中小スーパー】
- 業界は昨年よりは多少良いと考える。【中小スーパー】
- 震災後、福島原発の放射能と、災害が続き、当町商店街の中でも、閉鎖する商店が相次ぎ、これから先の見通しは、まったく立てられません。【衣料】
- この状況下、前年や先の予想など見当がつきません。【衣料】
- 経済の超低迷、風評被害による売上げ減。【衣料】
- 原発事故以降、消費者は「和装きものどころではない」という気持ちが強いようで、売上減です。【衣料】
- 復興支援が少なくなってきた。環境の変化に適応していきたいと思う。【飲食料】
- 福島県全体は今後どうなるのか、先が見えない。【飲食料】
- 今期4月～8月までは、猛暑にかかわらず昨年より15%程度売上も上昇し、まずまずの成績でした。ただ、震災復旧の為、店の前の国道の工事が延長したので店の売上に影響しております。【飲食料】
- 福島県産野菜はほとんど使用していないので、風評被害も少なく食欲の秋に向けて、増産傾向です。【飲食料】
- 放射能被害のため業況悪化。【飲食料】
- 当社は茨城との県境に位置しておりますが、原発問題以降、帰省客・観光客が遠のきました。福島県はどうなるのか。人口減少はおさまりがなさそうです。【飲食料】
- 原発事故が早く収束しないと経営が大変です。【家電品】
- 震災復旧需要あり。だが、農産物収穫期を迎え、放射能汚染が懸念される。【家電品】
- 放射能問題から、設備投資、買替等、話が進まない。先がどうなるかという不安からか、沈滞している。【家電品】
- 原発事故の問題で購売意欲がなくなっている。【家電品】
- 震災にて、大口発注有り、良化。【自動車販売】
- 震災以後販売の低下は業界にとって大きく、利益の確保はむずかしい。当分の間この状態が続くと思われる。【自動車販売】
- 被災地域の家具店は特需があり現在は昨年より売上げを伸ばしているが、これから先逆に不安を感じる。【家具・建具】
- 肥料タイプの販売がこれからの中心になるので、放射能の影響がどれだけ出るのか不明。【その他】
- 新地町・相馬市・南相馬市で、農業資材の販売を行っているが、先が見えない状況が震災以降続いており、大変心配している。【その他】
- 地震、津波の被害にあった農家をサポートしようと、作物の出張支援販売などでも頑張ったが、放射能による風評被害では、共にフクシマのイキというだけで敬遠されてしまう。でも知恵をしぼって、方策を考えます。【その他】
- 震災後、先行きが見えないので正社員をパートに変更した為に、売上げが若干減少したものの、社保、給料等の削減で何とか採算がとれているというのが現状です。【その他】

## <サービス業>

業況DI値	
今回	-32.0
先行き	-24.5
前回比	19.5

対象企業	105
回答企業	53

業況・資金繰りはわずかに改善、売上は改善、採算は横ばいを示した。業種別にみると「運送」は業況・採算で大幅改善、売上・資金繰りで改善を示し、「情報サービス」は売上で大幅改善、業況・資金繰りで改善を示したが、「タクシー」は業況・採算で横ばい、売上でわずかに改善、資金繰りでわずかに悪化を示し、「観光旅館」は業況・売上で横ばい、採算で大幅悪化、資金繰りでわずかに改善を示した。

3か月先見通しの業況・採算はわずかに改善、売上・資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「タクシー」は業況で大幅改善、売上・採算・資金繰りで改善を見通し、「運送」は業況・採算でわずかに改善、売上で改善、「自動車整備」は業況・売上・採算・資金繰りの全てでわずかに改善を見通しているが、「観光旅館」は業況・売上で悪化、採算で横ばい、資金繰りでわずかに悪化を見通している。

「まだまだ震災の影響が続いている。人員を削減し経費を減らしている」「原発事故の影響で福島県の企業からは購入しない、といった風潮が強い。県内企業の存続が危ぶまれているのではないか」という声や、「震災特需の後が不安材料」「震災の影響で、先行きの不透明感がぬぐえぬが、資金借入れ環境が良くなり、設備投資のチャンスととらえ今後に活かしてゆきたい」といった声があった。

### 自由意見

#### サービス業

- 当社は土湯に所在する温泉旅館であるが、土湯という温泉地が、その機能を維持しえるかが危ぶまれる状況である。 【旅館・ホテル】
- 地震と原発事故による風評被害で影響大です。 【旅館・ホテル】
- まだまだ震災の影響が続いている。人員を削減し経費を減らしている。 【タクシー】
- 震災後、拾い客の数が増加しており(仮設住宅からの予約等の増加)今のところ安定していますが、秋以降の動向は不明です。 【タクシー】
- 震災特需の後が不安材料。 【タクシー】
- 風評被害が当分収まりそうもないので、経営環境が良くなるには相当時間がかかると思う。とにかく、原発事故の収束が最大の課題である。 【タクシー】
- 機械等の故障、さらにはその修理代がかさみ、新しい機械等に入替を望んでおりますが、現時点では身動きが出来ない状態。審査の厳しくない無利子の資金等があればと思案しております。 【運送】
- 燃料が少しづつ値下がりにしているが、まだまだ前年価格には追いつかない。 【運送】
- 震災の影響で、先行きの不透明感がぬぐえぬが、資金借入れ環境が良くなり、設備投資のチャンスととらえ今後に活かしてゆきたい。 【運送】
- 震災後落ち込んでいた売上もようやく前年並に戻って参りましたが、先が見えない分慎重にせざるを得ない状況です。今後もコスト面での切り詰めは避けられません。 【情報サービス】
- 原発事故の影響で福島県の企業からは購入しない、といった風潮が強い。県内企業の存続が危ぶまれているのではないかと。 【情報サービス】
- 今回の原発事故により風評被害による客数は、前年比の1/3となり、予想以上の減少であった。風評被害で深刻な状況にもかかわらず、未だ入湯税を徴収され続けているのは非常に厳しい。 【情報サービス】
- 人の流出は全産業において大きなダメージ。今後、ますます影響が出てくると思う。 【その他】